

地域経済の活性化と知的財産の活用について－和歌山県知財総合支援窓口の現場から



会員 小林 和史

要 約

地域経済の活性化は日本の抱える課題として重要性は高く、それを支える中堅・中小企業のビジネス再構築に知的財産の活用は経営者にとって慎重に検討すべき手段のひとつである。しかしながら、その活用実態は大企業に比べ、ビジネス規模を考慮しても、まだまだ十分とは思えない。

筆者は、東京に日本法人本社を置く米国企業に38年勤務し、最後の約10年間は知的財産のライセンス業務に携わった経験を活かし、故郷の経済活性化に貢献したいとの希望から、2022年4月よりINPIT和歌山県知財総合支援窓口の相談対応者として活動している。1年間の活動を通して得た、地域経済振興と知的財産という論点に関する知見を現場目線からまとめてみよう今回筆をとった次第である。

なお、本稿で述べられた見解は、あくまで弁理士である筆者個人の見解であり、引用された団体の見解を反映したものでないことを申し添える。

目次

1. はじめに
2. 知財総合支援窓口に関して
3. 和歌山県の産業概況
4. 支援活動を通して
 4. 1 農業
 4. 2 水産・林業
 4. 3 製造業
 - (1) 化学
 - (2) 繊維
 - (3) 食品
 - (4) 機械
 - (5) 金属加工
 - (6) 日用品
 4. 4 サービス業
 4. 5 伝統工芸
5. まとめ

1. はじめに

今世紀の初頭より、長らく日本の産業界は低成長を続けてきた。なかでも地域経済の活力の減退は深刻であり⁽¹⁾、中堅・中小企業、スタートアップ企業の活性化が国・地方行政機関にとって重要課題であり、数々の施策が採られている⁽²⁾⁽³⁾。課題解決に向けて、例えば中小企業庁は全国に各種支援窓口を設置している⁽⁴⁾。

筆者は、東京に日本法人本社を置く米国企業に38年勤務し、最後の約10年間は知的財産のライセンス業務に携わった経験を活かし、故郷の経済活性化に貢献したいとの希望から、2022年4月よりINPIT和歌山県知財総合支援窓口の相談対応者として活動している。1年間の活動を通して得た、地域経済振興と知的財産という論点に関す

る知見を現場目線からまとめてみようとして今回筆をとった次第である。

2. 知財総合支援窓口に関して

INPIT（独立行政法人 工業所有権情報・研修館）⁽⁵⁾は、2011年度から特許庁が全国都道府県において開始した「知財総合支援窓口」を2016年度より引き継いで、中堅・中小企業を中心に知的財産のビジネスへの有効活用を目的とした支援を関係連携機関と総合的に提供している⁽⁶⁾。知財総合支援窓口事業は、工業所有権情報検索エンジン、J-PlatPat⁽⁷⁾に代表される知財情報の提供、オンライン知財教育コンテンツプラットフォーム、IP_ePlat⁽⁸⁾に代表される知財人材育成と並ぶ3本の事業の柱の一つである⁽⁹⁾。INPITは、2022年度より地域中堅・中小企業を主なターゲットとして新たな経営戦略支援事業である「IPランドスケープ⁽¹⁰⁾支援事業⁽¹¹⁾」を展開しており、知財総合支援窓口の支援メニューのひとつとなっている。

3. 和歌山県の産業概況

和歌山県は、紀伊半島の南西部を占め、北に大阪府、東は奈良県、三重県と隣接し、県の西部には半島を外周する海岸線を有し、北部は東西に紀の川が流れている。

林業を除き主な産業は海岸線または紀の川流域の平野部で営まれている。事業所ベースで産業別に全国との比較を行うと表1のような特徴が見て取れる。このうち全国平均より就労者比率の高い卸・小売業に関して、事業所規模を全国平均と比較したのが、図1である。卸・小売業においては、小規模事業者の割合が比較的高いのが特徴であるのが分かる。さらに工業所有権と関連が強いと考えられる製造業の構成をみると、図2に表された特徴がある。（いずれも和歌山県調査統計課HPからの引用⁽¹²⁾）

4. 支援活動を通して

ここからは1年間の実務を通じた筆者の実体験をもとに、支援企業の知的財産に対する認識とその活用実態を筆者の考えとともに業種別にまとめて紹介して行きたい。

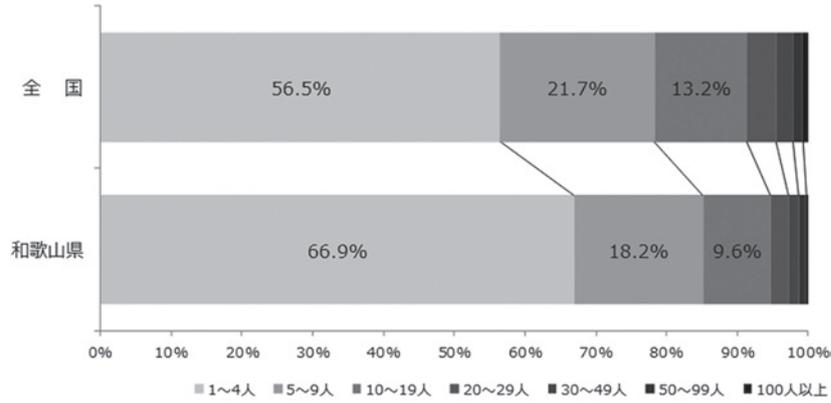
最初に、和歌山県内を住所とする出願人の出願件数の推移を特許出願（図3）と商標登録出願（図4）について見てみる。元データは2023年3月27日に実施したJ-PlatPatを使った検索結果であり、いずれも国内出願件数の統計である。特許出願に関しては、全国件数の0.1%以下であり、明らかな減少傾向を年々示しているが、これは

表1 和歌山県の産業別事業所数およびその従業員数の全国平均との比較

産業大分類	事業所数					従業員数				
	全国		和歌山県		割合の差 ②-①	全国		和歌山県		割合の差 ④-③
	実数	割合①	実数	割合②		実数	割合③	実数	割合④	
全産業	5,340,783	100.0%	47,247	100.0%	0.0	56,872,826	100.0%	377,605	100.0%	0.0
農林漁業（個人経営を除く）	32,676	0.6%	255	0.5%	▲ 0.1	363,024	0.6%	3,487	0.9%	0.3
鉱業、採石業、砂利採取業	1,851	0.0%	8	0.0%	▲ 0.0	19,467	0.0%	128	0.0%	▲ 0.0
建設業	492,734	9.2%	4,312	9.1%	▲ 0.1	3,690,740	6.5%	25,860	6.8%	0.4
製造業	454,800	8.5%	3,947	8.4%	▲ 0.2	8,864,253	15.6%	60,026	15.9%	0.3
電気・ガス・熱供給・水道業	4,654	0.1%	41	0.1%	▲ 0.0	187,818	0.3%	1,191	0.3%	▲ 0.0
情報通信業	63,574	1.2%	234	0.5%	▲ 0.7	1,642,042	2.9%	2,890	0.8%	▲ 2.1
運輸業、郵便業	130,459	2.4%	935	2.0%	▲ 0.5	3,197,231	5.6%	20,674	5.5%	▲ 0.1
卸売業、小売業	1,355,060	25.4%	12,878	27.3%	1.9	11,843,869	20.8%	80,632	21.4%	0.5
金融業、保険業	84,041	1.6%	726	1.5%	▲ 0.0	1,530,002	2.7%	10,015	2.7%	▲ 0.0
不動産業、物品賃貸業	353,155	6.6%	2,823	6.0%	▲ 0.6	1,462,395	2.6%	8,586	2.3%	▲ 0.3
学術研究、専門・技術サービス業	223,439	4.2%	1,480	3.1%	▲ 1.1	1,842,795	3.2%	7,391	2.0%	▲ 1.3
宿泊業、飲食サービス業	696,396	13.0%	5,688	12.0%	▲ 1.0	5,362,088	9.4%	36,832	9.8%	0.3
生活関連サービス業、娯楽業	470,713	8.8%	4,258	9.0%	0.2	2,420,557	4.3%	16,296	4.3%	0.1
教育、学習支援業	167,662	3.1%	1,465	3.1%	▲ 0.0	1,827,596	3.2%	10,314	2.7%	▲ 0.5
医療、福祉	429,173	8.0%	4,084	8.6%	0.6	7,374,844	13.0%	63,285	16.8%	3.8
複合サービス事業	33,780	0.6%	445	0.9%	0.3	484,260	0.9%	5,461	1.4%	0.6
サービス業（他に分類されないもの）	346,616	6.5%	3,668	7.8%	1.3	4,759,845	8.4%	24,537	6.5%	▲ 1.9

出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス・活動調査」

従業員規模別事業所数（卸売業・小売業）



出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

図1 和歌山県の卸売り・小売業の従業員規模別事業所割合の全国平均との比較

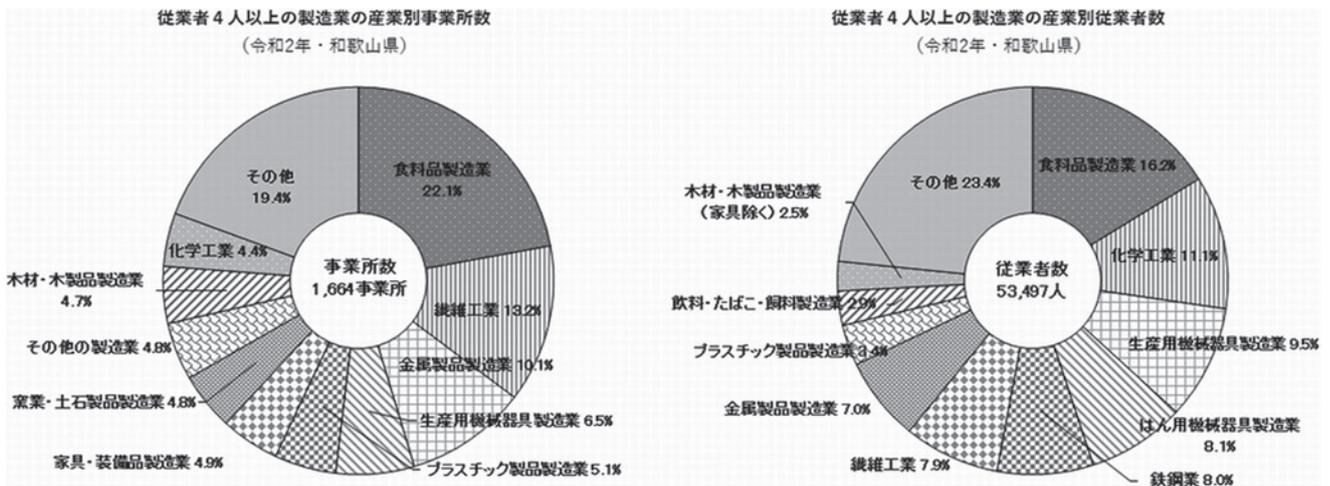


図2 和歌山県の従業員4人以上の製造事業者の産業別事業所数および従業員数



図3 和歌山県の特許出願件数の推移

全国規模の傾向も同じである。(2021年の件数は、出願公開前のものを含まないため実数はこれよりも多いと推測する)

商標登録出願に関しては、年間400件、全国総数比で0.3%あたりを推移しており、特許出願の2～3倍程度となっている。

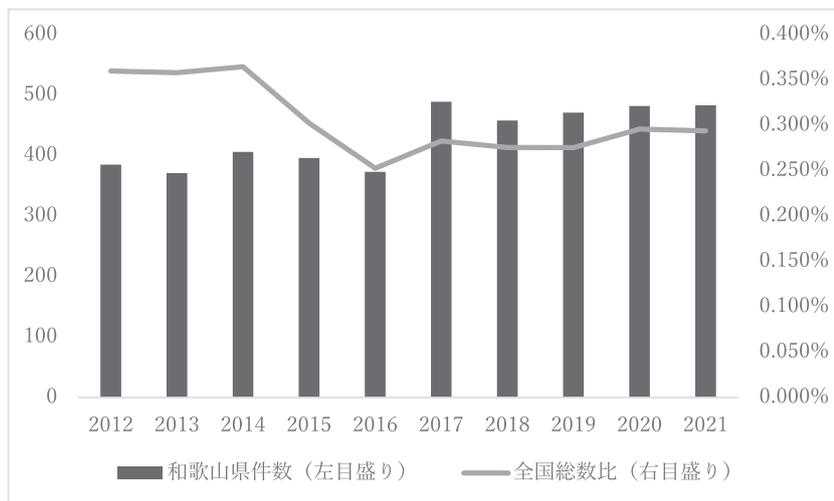


図4 和歌山県の商標登録出願件数の推移

4.1 農業

図5から分かるように和歌山県産の農産物の69%（産出額ベース）は果実であり、その中で主力産品は、図6のとおりである。（両図とも、和歌山県調査統計課 HP からの引用⁽¹³⁾）

主力産品のうち柿に関しては2017年に米国が日本産の輸入を解禁したのを契機に和歌山県産の柿が米国に輸出された⁽¹⁴⁾。現時点では西海岸市場が中心であるが、県産果実の米国市場展開の成功例として期待される。課題は米国産品との競合・差別化と考えられる。筆者のかつての同僚のニューヨーク在住のアメリカ人によれば、柿はCOSTCOやBI'sといった食品量販店でよく見かけるフルーツとのことで、2023年2月時点のAMAZONでのカリフォルニア産の小売価格は5ポンド、48.5ドルとのことで、これはキログラム・円換算で2800円程度である。輸送に伴うコストアップを考えると、市場拡大には米国産との差別化のためのプロモーションの継続が大事と思われる。

この業種からの相談は主に商標登録に関するものであり、主力産品のうち地域団体商標⁽¹⁵⁾やGI（特定地理表示）⁽¹⁶⁾に関する相談・支援を行ったものもある。その中でも法人化された農園からは高付加価値加工品のブランド化を目指すための商標登録取得の相談が多く、新商品のプロモーションにプレミアム和歌山⁽¹⁷⁾認定に連携機関と協力したりもしている。品種登録に係る育成者権に関する相談を受けることもあるが、件数は多くはない。

他の切り口としては、従事者の高齢化に伴う事業継続という課題の解決手段と目されている農業の情報化・機械化に関する支援がある。特に全国トップの座を維持してきた梅農業の持続的成長は地域農業課題のうちでも重要である。この課題に関して連携機関の事業者訪問に同行させて頂く機会があり、自動化導入の阻害要因である独特の

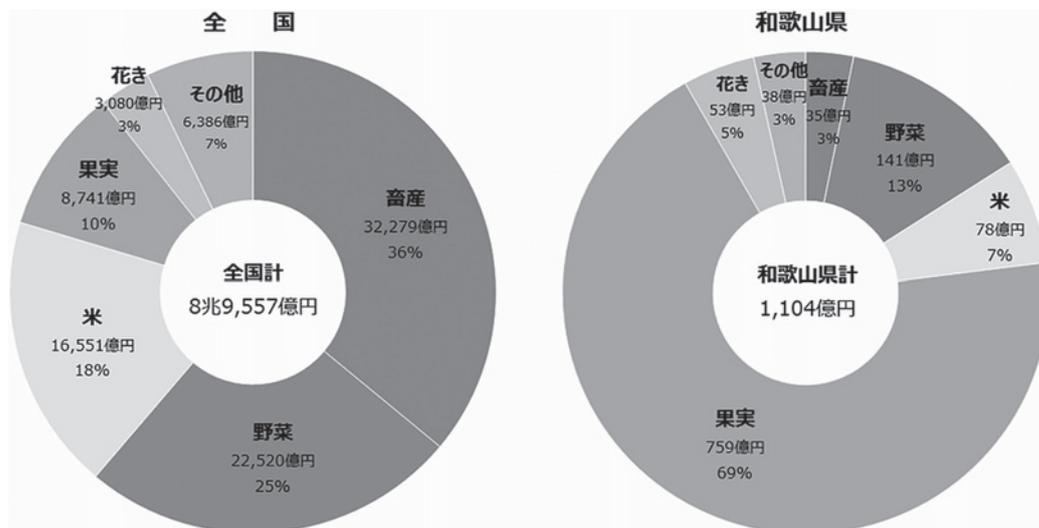


図5 和歌山県の令和2年農業産出額内訳と全国との比較



図6 和歌山県の令和2年果実生産額内訳

現実的課題（栽培地のほとんどが傾斜地のため市販機械では対応できないこと、収穫後の枝切・集約・廃棄といった独特の重労働が必要なこと、選果は熟練した人間の目に頼るしかなく AI などの IT 化が進んでいないこと、など）を認識した。現在、解決手段の探索に協力している。

4.2 水産・林業

水産・林業に関しては、相談内容は農業と同じ高付加価値加工品のブランド化を目指した商標登録に関するものが大多数であるが、件数としては農業と比較してかなり少ない。県内事業従事者統計⁽¹⁸⁾からこの傾向に至っていると推測される。

4.3 製造業

(1) 化学

和歌山県は、染色に代表される繊維産業が歴史的に盛んであった。そのため古くから化学産業が県内の主力製造業の位置を占めていた⁽¹⁹⁾。化学産業はサプライチェーンが長く、県内化学産業の企業の中で自社製品を手掛ける会社は比較的少数である。そのため、農業のように商標登録に関する相談は多くない。特許に関しては、出願・権利化に積極的な企業も少なくないが、特定の特許事務所が代理している場合がほとんどであり、数よりも質（ビジネス的な意義）を重視して出願案件を絞っているように感じている。こういう状況から、ユニークな特許技術を保有している、かつ／または、自社製品を開発している企業をピックアップして、IP ランドスケープ支援事業の提案を試行している。

(2) 繊維

歴史的に和歌山県の主要産業であり、完成品の被服、撚糸、ニット（編み物）⁽²⁰⁾、織物、染色など多種多様の業態から成り立っている。また県北東部の紀の川上流地域は、質感あふれる有毛布地のパイル織物⁽²¹⁾の一大産地である。この産業も化学産業同様、サプライチェーンは長く、構造は複雑であり、自社企画の商品ビジネスを行っている企業は比較的少数である。この30年、円高の影響もあり廉価な中国産品との競合にさらされていて、価格競争で対抗するのは設備・人員両面から難しいため、商品の高付加価値化が課題という経営者の言葉をよく耳にする。

この産業に関しては、WEB を活用して自社商品を全国展開されている企業に商標登録を起点とするブランド化支援を模索している。

(3) 食品

伝統的に県内で生産され、WEB を活用して全国展開されている食品企業は多い。代表的なものとしては、醤油、かつお節、日本酒、および梅酒、梅干しに代表される梅加工食品、高野山の名産のごま豆腐、和菓子などがあげられる。商標登録取得の相談が多く、新商品のプロモーションにプレミアム和歌山認定に連携機関と協力したりもしている。

(4) 機械

繊維産業の発展に機械化は必須であったため、19世紀初頭から県内には繊維産業向け機械の完成品・部品メー

カーが多数存在する⁽²²⁾。また、製鉄、化学、食品といった県内主要産業向けの機械メーカーも多く、県外のみならず海外展開に成功している中堅企業も何社かある。特許に関しての私見は、化学産業と同じで、支援アプローチとしては候補企業を絞って、IP ランドスケープ支援事業の提案を行っている。

(5) 金属加工

産業用機械メーカーが多数県内に存在した関係で、金属加工事業者は多く、難度の高い課題をこなせ、県外から案件を受注している企業も少なくない⁽²²⁾。しかし、ビジネスモデルが発注元の要求に応じる OEM である場合がほとんどのため、支援件数は極めて少ない。現在試験的に、連携機関である下請け駆け込み寺⁽²³⁾と連携し、受注時に不当な条件で自社知財の提供を応諾しないよう知的財産制度・その活用に関して啓蒙活動を始めている。

(6) 日用品

和歌山市の南に隣接する海南市とその近隣地区は原料となる棕櫚（しゅろ）の産地であったため、タワシなどの日用品の生産地としての長い歴史を持っている⁽²⁴⁾。原材料として自然材料が化学材料に置き換わった後も、日用品はこの地域の主要産業の地位を保持し続けている。品目に着目すると、水回り雑貨の他、タオルなどの繊維製品や食器などの生産・販売事業者が多い。価格競争は厳しいが、環境配慮の潮流に乗ったユニークな素材を使った新商品により高付加価値化を目指している企業も少なくない。

その他、和歌山県特産の日用品として、蚊取り線香がある。東南アジアを中心に海外でも重宝されている蚊取り線香の発祥の地は和歌山県有田市と言われており⁽²⁵⁾、現在も渦巻き型の蚊取り線香は県の特産品である。戦時中に自然素材（殺虫有効成分のピレトリンは除虫菊から抽出される）から製造効率のよいピレスロイド系の合成物質に有効成分が移り変わったが、昨今の自然素材志向からまたピレトリンを有効成分とする商品も販売されている。

日用品業界は、WEB など EC チャネルを活用した自社商品展開を行っている事業者も少なくなく、ユニークなネーミングはブランド展開の成否に影響し、適時の商標登録出願の動機づけとなっていると感じている。

4. 4 サービス業

和歌山県の主力サービス業としては、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」⁽²⁶⁾や白浜温泉といった観光資源を活用した、宿泊、飲食、物販や観光サービスがあげられる。その他、集客力が期待されるイベントとしては、県南端部、串本町に建設されている国内初の民間ロケット発射場、スペースポート紀伊からの初号機の打ち上げが予定されている。こうした観光資源を活用した地域おこしの旗印として登録商標を活用している事例もいくつかある⁽²⁷⁾。

4. 5 伝統工芸

経済産業省は、伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づいて、「伝統的工芸品」の指定を行っており⁽²⁸⁾、和歌山県からは、1) 紀州箆笥⁽²⁹⁾、2) 紀州へら竿⁽³⁰⁾、3) 紀州漆器⁽³¹⁾の3つが指定を受けている。工業的量产過程で生産されるものでないため、本質的に高付加価値商品である。経営者でもある創作者との対話から、彼らは自身の力量と作品に自信と誇りを持っており、知的財産制度による自作の保護を積極的に求めようという意識は希薄と個人的には感じる。相談案件ごとに活用しうる知的財産制度に関する啓蒙活動から入ることが多い。

5. まとめ

地域経済の活性化と知的財産の活用という本論考の主題に関して、和歌山県の現状分析をもとに事業者類型ごとに私見を以下にまとめる。

● スタートアップを含む小規模事業者について

県内に移住し、様々な支援制度を活用して起業される事業主は多い。補助金などの財政面の支援機関と連携し、商標登録取得支援を起点にオンラインビジネスを中心に事業立ち上げを契約法務・マーケティング両面から支援していくことが望ましいと感じる。

● 代々営業を継続している中小事業者について

このタイプの事業者の多くは、OEM ビジネスを長年行って来ており自社技術やブランドに関して工業所有権の取得に向けての動機付けは高くない。しかしながら、経営者との会話でキーワードとして、「高付加価値商品」開発という言葉を目にする機会は多い。原材料やエネルギーの調達コストが上昇している厳しい経営環境の中で、生産能力の制約を考え、オンラインサービスを有効活用して、自社技術・企画で差別化を図ろうという事業者は一定数存在する。相談内容は商標登録関連がほとんどであるが、現業にリソースを集中させ、手続きは特許事務所に委任しているケースが多い。そういった意欲を抱く経営者の発掘・知的財産活用の動機づけが大きな課題と感じる。

● 自社ブランド製品・サービス・ユニークな技術を保有している中堅事業者について

大部分のこのタイプの事業者は、工業所有権を活用した経験が豊富で、権利化・維持業務に関しては信頼関係のある特許事務所に任せている。共通する課題は、厳しい経営環境下で現行事業の利益の確保であるが、新規事業・製品・サービスを立ち上げることに取り組もうとしている企業も少なくない。そういう会社に連携機関と、その課題解決の足掛かりとしてIP ランドスケープ支援事業を提案している。その他、営業秘密保護や職務発明に関して社内規則の整備を行いたいという相談もたびたびあり、専門家派遣などで対応している。こういったテーマが権利化の先にある知財ニーズと考えている。

● その他

特産品や観光資源など、地域に根差した知的財産の活用を推進するため、地域団体商標やGI制度が利用されており、制度の周知および利用のための支援も優先度の高い案件と考えている。課題は、権利化以降の地域経済活性化を目指したビジネス拡大である。コロナ禍による停滞をこの3年あまり余儀なくされたが、回復に向かいつつある現在、2023年度以降の急速な需要回復を期待しつつ、連携機関と協働するつもりである。

以上、和歌山県の現状分析をもとに私論を展開したが、他地域にも共通する知見もここから抽出できるのではないかと考えている。知的財産を活用した地域経済の活性化という、わが国の根本課題の解決の参考となれば幸いである。

(注)

(1) 総務省資料 地域・地方の現状と課題

https://www.soumu.go.jp/main_content/000629037.pdf

(2) 経済産業省 施策一覧 中小企業・地域経済産業

https://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki.html (参照日：2023年4月9日)

(3) 和歌山県 企業振興課

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/homepage/index.html> (参照日：2023年4月9日)

(4) 中小企業庁 各種窓口

<https://www.chusho.meti.go.jp/soudan/madoguchi/index.html>

(5) INPIT HP

<https://www.inpit.go.jp/about/index.html>

(6) 知財総合支援窓口 HP

<https://chizai-portal.inpit.go.jp/>

(7) J-PlatPat

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/s0000/ja>

(8) IP_ePlat

https://ipeplat.inpit.go.jp/Elearning/View/Login/P_login.aspx

(9) INPIT について これから…

<https://www.inpit.go.jp/about/index.html>

(10) 「IP ランドスケープ」は、正林真之氏を権利者とする登録商標（商標登録第 6000370 号）です。

(11) IP ランドスケープ支援事業

<https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ipl/index.html>

(12) 和歌山県調査統計課 和歌山県の商工業

- <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020300/kids/wakadata/shoko.html>
(13) 和歌山県調査統計課 和歌山県の農業
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020300/kids/wakadata/nogyo.html>
- (14) JETRO 地域・分析レポート 米国向け輸出解禁を機に、和歌山県産柿が初輸出を実現
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2018/1ad98a6ec7c7e73a.html>
- (15) 地域団体商標登録案件一覧
<https://www.jpo.go.jp/system/trademark/gaiyo/chidan/shoukai/ichiran/index.html#mokuji-wakayamaken>
- (16) 登録産品一覧
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/register/index.html
- (17) 和歌山県産優良品の認定プログラム
<https://premier-wakayama.jp/about/>
- (18) 和歌山県の農林水産業 平成 30 年 4 月
<https://premier-wakayama.jp/about/>
- (19) ものづくり和歌山 化学の産地紹介
<https://wakayama-sangyo.kir.jp/monozukuri/production/chemical-industry/>
- (20) ものづくり和歌山 ニットの産地紹介
<https://wakayama-sangyo.kir.jp/monozukuri/production/knit/>
- (21) ものづくり和歌山 パイルの産地紹介
<https://wakayama-sangyo.kir.jp/monozukuri/production/pile/>
- (22) ものづくり和歌山 機械・金属の産地紹介
<https://wakayama-sangyo.kir.jp/monozukuri/production/machinery-metal/>
- (23) 中小企業庁：下請かけこみ寺 (meti.go.jp)
<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/kakekomi.htm>
- (24) ものづくり和歌山 家庭用品の産地紹介
https://www.wakayama-sangyo.com/monozukuri/production/household_goods/
- (25) Wikipedia 蚊取り線香
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%9A%8A%E5%8F%96%E7%B7%9A%E9%A6%99>
- (26) 世界遺産を知る | 和歌山県世界遺産センター (sekaiisan-wakayama.jp)
<https://www.sekaiisan-wakayama.jp/know/index.html>
- (27) スペースタウン串本ロゴマーク等の使用申請について | 串本町
<https://www.town.kushimoto.wakayama.jp/sangyo/rocket/2021-1108-1002-11.html>
- (28) 伝統工芸品 (METI/ 経済産業省)
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/nichiyo-densan/index.html
- (29) 紀州箆笥 伝統工芸 青山スクエア
<https://kougeihin.jp/craft/0626/>
- (30) 紀州へら笥 | 伝統工芸 青山スクエア
<https://kougeihin.jp/craft/0627/>
- (31) 紀州漆器 | 伝統工芸 青山スクエア
<https://kougeihin.jp/craft/0520/>

(原稿受領 2023.4.22)